

平成 30 年 9 月 25 日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学
教授 片渕秀隆

拝啓

私にとって長い間の夢のひとつでした、婦人科病理学を理解した次世代の産婦人科医を育成する目的で開催しました『K'sギネ・パソ塾 (K'sセミナー)』を、澄みわたった青空の下、左手に緑の阿蘇五岳を眺めながら8月25日、26日に開催でき、本当に嬉しく思っています。また、大地震による大変な被害から復興の最中にある阿蘇の地を塾生の皆さんに直接みて頂いたことも良かったと思います。先日、何気なく読んだ医学雑誌のエッセイに、「熊本でもお城のお堀周りをジョギングしたが、若者が朝まで飲んでいてアーケード街にうろうろしていることが印象に残った。この若者たちのパワーなら震災の復興も大丈夫だろうと思った。」という一文がありました。学会などで全国各地を訪れますが、週末の夜半までひとひとでいっぱいの下通りの光景は、大都会を除いて見たことがなく、これが熊本に受け継がれる力の源なのでしょう。

先日、私が理事長を務めます日本臨床分子形態学会の記念の第50回総会が、白金にある北里大学薬学部で開催されました。この地は、肥後の国が生んだ近代日本医学の先覚者である北里柴三郎が「北里研究所」を創設したところです。北里は、1892(明治25)年、ローベルト・コッホの下でのドイツ留学から帰国後、内務省に復職すると同時に、現在の芝公園内に私立伝染病研究所を創立しています。その後、1899(明治32)年には国に寄付し内務省管轄の国立伝染病研究所に変わり、白金に移転しました。しかし、1914(大正3)年、行政改革により国立伝染病研究所が内務省から文部省に移管されたことから、北里は「国家の制約に縛られない研究業績を目指し日本医学の発展と国民の衛生状況の改善と向上」のために、新たな医学研究機関である「北里研究所」を創立したという歴史的な経緯があります。昨秋、敷地内に「北里柴三郎記念館」が開館されました。

10月と11月の予定表を同封致しました。9月30日(日)の午後、肥後医育振興会主催の今年度第2回の肥後医育塾を『ワクチンのことを正しく知りましょう』というテーマで、小児科学の中村公俊教授と一緒に担当します。第3回は、日本人の百歳以上が7万人となった今(因みに、昭和38年は153人)、『私たちの未来は”百寿社会”?』というテーマで、1月12日(土)に開催されます。是非ご参加下さい。

敬具